

滞納

滞納額は約32億円

税金や使用料などで23年度までに納められなかった金額は約32億円で、前年度と比較し約7千万円の微減となっています。ただし、未だに30億円を超える滞納を解消するため、差し押さえや法的措置などの厳しい措置を行っていきます。

平成22年度までの主な滞納額	
町民税	1億1,815万円
固定資産税	1億7,559万円
軽自動車税	2,059万円
国民健康保険税	2億1,936万円
保育料	8,165万円
住宅等使用料	2億5,528万円
住宅管理料	448万円
学校給食費	4,328万円
住宅新築資金等貸付金	20億950万円
水道使用料	2億7,468万円

地方債(普通会計)

町の借金残高は約225億7千万円

年度を越えて元利を償還する借入金を「地方債」といいます。23年度末の残高は22年度から約2億7千万円増加し、約225億7千万円となっています。合併後順調に残高を減少させ続けていましたが、合併後初めて増加に転じました。今後も借金減少に向けて事業効果を十分検討し、慎重な地方債発行を行わなければなりません。



特別会計

国保会計と診療所会計の赤字が増大

特定の事業を行うために一般会計と分けて設置される特別会計では、国保が約8億2千万円、診療所が約3億円の赤字を出し、厳しい状況に直面しています。

区分	歳入	歳入歳出差引
住宅新築資金等貸与事業	1億9,716万円	5,240万円
国民健康保険	28億2,053万円	-8億1,507万円
後期高齢者医療	2億6,006万円	726万円
町立診療所事業	4億6,582万円	-2億9,608万円
田川郡町村公平委員会	115万円	45万円
事業会計	総収益	差引額
水道事業(収益的事業)	6億6,008万円	1億15,96万円

健全化判断比率・資金不足比率

早期健全化基準は全てクリア

健全化判断比率	福智町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率*1	(△)17.39%	13.85%	20.00%
連結実質赤字比率*2	(△)9.07%	18.85%	30.00%
実質公債費比率*3	14.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率*4	(△)96.3%	350.0%	—

健全化判断比率	福智町	早期健全化基準	備考
資金不足比率*5	(△)95.6%	20.0%	水道企業会計での算定

※赤字が生じない場合は「—」で表示、参考値の黒字比率を(△)内に掲載。
 *1 普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
 *2 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
 *3 借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度をみる比率
 *4 町が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率
 *5 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率

決算概要 行財政改革待ったなし

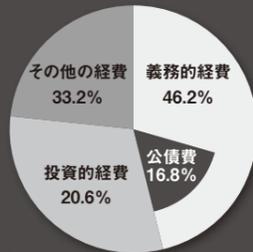
財政硬直慢性化からの脱却

一般会計の歳入額は162億5千万円、歳出額148億3千万円で翌年度に繰越すべき財源を除き、約12億8千万円の実質収支黒字となっています。ただし、前年度からの繰越金が約12億1千万円あることから、単年度の収支としては6千4百万円の黒字ということになります。この様に、前年度繰越金や基金の取り崩しで毎年度10億円前後の実質収支黒字を計上しているものの、財政力指数は全国最低水準、また財政構造の弾力性を測る経常収支比率は96.2%と、これも類似団体中の最高レベルにあり、財政硬直の慢性化からの脱却が昨年にも増して急務な課題となっています。

一般会計歳出

歳出額は約148億3千万円

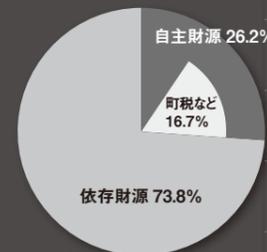
前年度に町が支出した一般会計の総額は148億3千万円です。これを性質別にみると、人件費・扶助費・公債費の「義務的経費」が68億6千万円で全体の46.2%、そのうち借金を返済する公債費は24億9千万円で16.8%となっています。また「投資的経費」は30億6千万円で全体の20.6%、そのうち普通建設事業費は前年度より1億8千万円増額の30億2千万円で、全体の20.4%を占めています。



一般会計歳入

歳入額は約162億5千万円

町に入った一般会計歳入額は162億5千万円でした。内訳は国、県に頼った依存財源が73.8%、町でまかなう自主財源が26.2%です。ただし自主財源の中には、基金(預貯金)の取崩しが1億2千万円、前年度繰越金が約12億1千万円含まれ、町税などの自主財源は27億2千万円と、全体の16.7%にとどまっています。また、依存財源のなかで最も多額なのが地方交付税で、歳入全体の39.3%を占めています。



決算

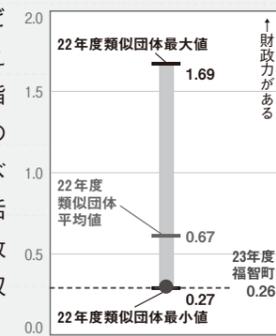
平成23年度まちの財政通信簿

平成23年度決算がまとまりました。歳出決算額は約148億円で、実質収支は約13億円の黒字でした。前年度の町のお金と財産の現状、今後の課題をみなさんの目でチェックしていきましょう。

財政力指数

最低水準の財政力

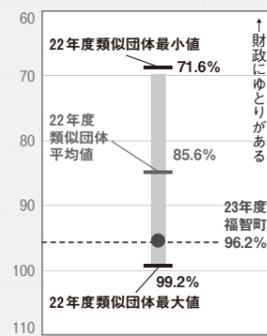
基準財政収入額を基準財政需要額で割った過去3年間の平均値が「財政力指数」です。指数が高いほど自力があり、指数が低いほど国への依存が低いといえます。福智町の財政力指数は22年度類似団体の最小値で、全国最低レベル。今後、地場産業の活性化、企業誘致など財政基盤の強化により、税収入の確保が必要です。



経常収支比率

昨年度より3.1%上昇し超危険ライン

家計に例えると、住居費や光熱水費、ローンの返済などのような、毎月確実に支出される経費に対する、給料などのような毎月決まって得られる収入の割合を表した数値です。本年度は96.2%と前年度より3.1%上昇し、さらに22年度類似団体数値を10.6%と大幅に上回っており、依然として財政構造の硬直化が顕著に現れています。



基金(普通会計)

町の貯金残高は約142億8千万円

法律や条例に基づいて設置される「基金」は、特定の目的のために活用できます。普通会計では24の基金があり、23年度末の残高は約142億8千万円です。23年度は後年度の計画的な公債費の償還財源として、減債基金へ7億6千万円を積立てたことなどにより、対前年度比で、約7億8千万円の増額となっています。

